

|                   |   |
|-------------------|---|
| 研究課題名             | 経腸栄養投与患者の白湯先行投与による下痢予防効果の実態調査   |
| 研究機関名             | 武蔵野赤十字病院  |
| 研究責任者             | 所属 看護部 HCU 氏名 中山 孝作   |
| 研究期間              | 平成 27 年 5 月 ~ 平成 31 年 2 月   |
| 研究の意義・目的          | 下痢は経腸栄養の合併症の中で最も多いといわれている。下痢が続くことで様々な不利益が生じる。<br>現在、誤嚥性肺炎予防効果があるとして、多くの臨床実践で栄養剤より前に白湯を投与されている傾向がある。下痢を予防出来るという文献は見つけられなかったが、生理学的に推測される根拠として、吸収されやすい白湯を先行投与することで消化管の準備ができ、消化吸收を促進するのではないかと考えられる。また、胃内で栄養剤と白湯が混ざらず、下痢防止効果があるのではないかと考えられる。以上のことから経腸栄養患者の下痢を軽減できるのではないかと仮説をたて、経腸栄養の手順を白湯先行投与方法とし、下痢防止効果があるかの実態調査と経腸栄養管理中の患者の下痢の背景要因を調査する。 |
| 研究の方法<br>(対象期間含む) | HCU入院した18歳以上のペプタメンAFを使用した患者のうち<br>H24年12月1日～H26年2月28日に白湯先行投与を用いて経腸栄養が行われなかった患者（Ⅰ群）とH27年4月1日～H28年6月30日に白湯先行投与を用いて経腸栄養を行った患者（Ⅱ群）を対象とする。<br>対象患者の年齢、性別、身長、体重、疾患、重症度、下痢の原因となる薬剤使用の有無、消化管治療の有無、栄養剤の種類・投与量・絶食期間、排便回数、排便ごとの性状を患者カルテから後ろ向きに収集しⅠ群とⅡ群間の経腸栄養開始後の排便回数、排便ごとの性状をt検定を用いて比較する。また、下痢の有無と患者基礎情報と投与した栄養剤の特徴について、多変量解析を行い、因果関係を把握する。      |
| 個人情報の取扱い          | 得られたデータを当院の規定されたパソコン内に保管し、第三者が閲覧できないよう、パスワードによりロックをかけ持ち出しは禁止とする。<br>紙媒体でデータ収集を行うが、規定されたパソコンにデータを記録したのち、カギのかかるロッカーに保管し、最終的データの不備がないことを確認した上でシュレッターにて破棄する。情報収集時、学会発表時は匿名化し取り扱う。また、研究データおよび結果は研究目的以外では使用しない。研究終了後2年間保管し、その後消去する。   |
| 問合せ先              | 当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ<br><br>〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1<br>武蔵野赤十字病院<br>所属 看護部 HCU 氏名 中山 孝作<br><br>TEL : 0422-32-3111 (代表) 6813 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525   |